

*
異世界からの転生者
獣納太郎に瞬殺され捕虜となった
第七魔王ベール

魔族の身体を奪われ
只の獣人にされた挙句
アケメ地獄をキメられてしまい
完全敗北したかに思えたが
心までは折れていなかった

魔族復興の為
ここぞ負けるわけにはいかない
今日こそ魔王の強靱な精神を
見せつけこやる時だ

* 詳しくは過去の投稿「ケモノリ魔王が異世界転生者に
負けこぼしされるわけがない」をご覧ください


「どうだい元魔王様
新しい服の着心地は」

「ふんっ…どうせ身を
辱めるための衣装なのだろうっ」

「貴様ら人間の下卑た考え
などお見通しだ」

ガニっ♡





「やれやれ酷いアクメ顔晒して
死ぬほどイキ狂った割に
まだ理性が残ってるとはな」

「はっ 舐めるなよ
例之身体はケモノになつたとしても
高貴なる魔族の精神までも
犯せると思ふな」

「そうかいじゃあ こいつらでその強靱な精神とやらを試させて貰おうか」

チキ

「なんだその貧弱な器具はそんな物でこの魔王ベールが屈すると本気で思っているのか？」

「この間のような極太ちゃんぽど無い限りそうやすやすとは感じたいせんど」

「やってみれば分かるさ」

「ぎゅんぎゅん…
まっまあ見かけよりは
やるではないか…ッ」

「だが所詮子供の玩具よ…
この程度ではいともいとも…」

グッ

グッ

グッ



♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡

「おニんじ♡♡♡」

♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡
♡

「おやどうした元魔王様？
大口を叩いてた割にもう余裕が
なさそうに見えるが？」

「ばっ馬鹿を言うなッ
只の貧弱な棒如きッ
毒の腫で捻いつぶしてミ」





[アホウアホウ♡♡♡]

アホウ♡♡

アホウ♡♡

♡♡

アホウ♡♡

アホウ♡♡

アホウ♡♡

アホウ♡♡

アホウ♡♡

アホウ♡♡

アホウ♡♡

「まッ待て二回やめろッ
こッこんな物でッ
イッイクなんてッ♡」

ハッ♡

クッ♡
クッ♡

フッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ガッ♡
ガッ♡

キッ♡
キッ♡

「そんな情けない事が
在つてはならんのだッ
妾はまッ魔王なのだぞッ♡」

「ぎゃあぎゃあうるせえぞ
メスウサギツオラッ
とつとつアクメしろッ」

「おっふざけるなッ
イってたまッるかあッ
グッラウラウッッッッ
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡



ベキベキ

「はは 相変わらず無様な
イキ顔だなメスウサギ」

「本当に貧弱なのは
お前のまんこの方だったな」

ガク

ガク

ビクッ

「グツグツグツ……ッ……
今回はたまたま調子が
悪かったただけだ……ッ」

「次も同じようには
ならんぞ……ッ」



「そりゃあ良かった
まだまだ器具は沢山あるんだ」

「次はせいぜい頑張るんだな」

ズン

おんおん

「なッ……くッ……とッ当然だ……ッ
見ておれよ……人間……ッ」

「早く次を入れるッこんな
モノには絶対に負けん……ッ」

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



數時間後



「うっぐぎぎ…イグツツ♡♡
まんこ…また負け…ツ
グうううイグツ…ツツ♡♡♡」

「結局二回も耐えれて
なかつたなメスウサギ」

「散々イキりちらした
結果がこれとは無様極まりないな」



「そんなにイキたいなら
お望み通りイキ殺してやるよ
玩具に蹂躪される自分の雑魚穴
嘆きながらイキ死になッ」

「待つ待てッいッ今触るなッ…
もうこれ以上…ッ♡♡♡」

「わッ母のッ魔王としての…
いッ威厳が…ッ♡♡♡」

「何が威厳だそんなもん」



「おっほおッ♡♡♡♡」

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

「とっくにねえんだよ
馬鹿まんこがッ」

ズボッ♡



「おニおびリンリン
もじもじおおニ
もじもじおおニ♡♡♡」

おニおび
おニおび

おニおび

おニおび

おニおび

おニおび

おニおび

おニおび

おニおび

おニおび

おニおび

「おニおびおニおび
またおニおびおニおび
おニおびおニおび♡♡♡」

「オラツ死ねッ
獣以下の下品で無様な
メス穴痙攣させてイキ死ねッ」

「ごおおおッおッ
だめえええッッ
もおッいぎだくないッ♡♡♡」

「おおおッ許じごええッ
死ぬッアケメ死んじやうらみッ
ごおおおッ♡♡♡」

「おッ
おッ
おッ」





「あッ...おッ...おッ...おッ...
ほッ...ほッ...ほッ...ほッ...
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

あッ

ほッ

あッ

ほッ

あッ

ほッ

あッ

ほッ

あッ

ほッ

あッ

あッ

「おれをハミハミ♡♡♡」



「はつようやく
メス便所らしい顔になってきたな」

「…ウオ…ッお…ミミ♡♡♡」

ビク
パチャアッ

ガクガク

ポポポッ

セツ

「これからその便所まんこを
人間様の高貴な精液で
清掃してやるから感謝しなッ」

「…はッ…ミミ♡♡♡」



更に数時間後





♥ DEFEAT END ♥

